

令和5年度 第3回公立鳥取環境大学教育研究審議会 議事要旨

- 日 時 令和5年11月21日（金） 14:00～15:30
- 場 所 本部講義棟3階 大会議室（対面+Webexによるオンライン会議）
- 出席者 江崎信芳委員、足羽英樹委員、宇佐美誠委員、尾室高志委員、田中仁成委員、山口武視委員、片木威委員、遠藤由美子委員、矢野委員、吉田高文委員、今井正和委員
[11名/12名]
- 欠席者 小林朋道委員

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

2 審議事項

(1) 公立鳥取環境大学第3期中期計画（案）について

事務局から公立鳥取環境大学第3期中期計画（案）について説明があり、意見をいただいた。これらの意見を踏まえて、第3期中期計画（案）を修正することとなった。

〈主な意見等〉

- ・ 「基本的な考え方」の中にもうちょっと「DX化」とか「デジタル化」ということを強調しても良いのではないか。「環境」に関する教育の進化の後くらいに「デジタル化の進展」とか「AI技術の普及、発展に伴う教育の前進」とか。昨今のビジネス界の中で最も外すことができない項目だと思う。今後6年間にわたってこの目標に沿った教育を進めていく中では、欠かせないキーワードではないかと感じている。
- ・ Vの広報活動とVIの広報活動と同じような項目がかぶっているのではないか。県外と県内で媒体は違っても考え方は同じではないかと思う。整理されてはいいか。
- ・ 国際交流の話と脱炭素の動きが別々の位置づけになっているのかなという印象がある。近年、欧米の大学を中心にキャンパスの脱炭素化、Net Zeroとか増えている。個々の教員による研究プロジェクトとは別に大学としてこれを進めている。様々な技術革新に資するようなプロジェクトを大学でやる。或いは学生を巻き込むように大学を上げてやっている傾向がかなり出てきているので、この2つ、すなわち1つは国際交流や学生の英語力等の国際化、大学全体の大きな目標のSDGs 特に環境関連その他脱炭素と連結させるようなことを今後検討してほしい。今後具体的に施策を考える中では、こんな形で連結できると積極的な姿勢を示している大学があるので、そういったところに学生の派遣を行うとかいろいろなやり方があると思う。
- ・ 「多様性」のところは女性教員比率23%とあるが、何%くらいなのか。全国的に女性教員をきちんと採用して能力のある人をしっかり見つけてくるというのがジェンダーの観点からだけでなく、大学の体力を高めるという意味でも非常に重要だと思う。例えば、勤務上の配慮について、自分の職場で最近決めた取り決めの中で、会議の時間を朝早くとか夜にすると男女問わず家庭の事情で、子供の送り迎えに支障が出るということで、職場全体の方針もあり、会議の時間を決めている。取り組むことも大事であるが表明することも優秀な人材を集める時にも助けになる。こういったことを将来的に検討いただきたい。
→女性教員比率は、現在21.2%。

- ・ 「学修成果の適切な評価」というところに「評価基準を適切に設定するなど」と記載されているが、これまで既に評価基準を決めているのなら「より具体的に設定する」等とか「改善するなど」とかして中期計画に既にあるとわかるようにする方が良いと思う。
→成績評価基準はきちんと定めたものはある。意見として成績評価基準に「カーブ」を導入してはどうかと考えている。それが「適切に設定する」という文言になった。
- ・ 「自己財源比率を中四国公立大学平均以上」とあるが何年度の平均なのかわかりにくい。
→中期目標に記載されている内容と同じである。第2期中期計画にもあったが、予算なのか、決算なのかいつの時点かなど今後、明確化していきたいと思う。
- ・ 「社会貢献・地域貢献・国際交流」のところで境港総合技術高校の取組で大学と高校だけの連携だけではなく地元の企業や民間団体も含めた将来にわたって守り育てていく貴重な体験であると思っている。高大連携も含めて地域社会貢献を果たす人材育成に繋げることが含まれていただけると高校生にとっても目指す視点につながるのではないかなと思う。
- ・ 地域の学校との連携に関する目標達成のための計画で大学が「学びの場」と記載されているが、ここに英語村の事も意識していただきたい。県内で生の英語に触れる機会が少ない中、子供たちの生の英語に触れる機会の確保のなか、その拠点に環境大学が英語村を活用してということがあれば、さらに子供たちに英語に触れる機会をより幅広く作っていくことができる場になると思う。
- ・ 「グリーン人材」という言葉が各所に出てくる。この「グリーン人材」は一般的にイメージされると思うが、環境大科学で考えている「グリーン人材」の定義でもどこかにあれば良いのではと思う。例えば「基本的な考え方」の「未来に必要とされる力を備えた」で「力」とはどんなものだろうと思った。そのあたり一言付け加えるなり定義を記載していただくより教育目標なりが明確になるのではないかなと思う。

3 報告事項

(1) 公立大学法人公立鳥取環境大学次期理事長（学長）候補者の選考について

事務局から、公立大学法人公立鳥取環境大学次期理事長（学長）候補者の選考について報告があった。

(2) 公立大学法人公立鳥取環境大学令和4年度業務実績評価書について

事務局から公立大学法人公立鳥取環境大学令和4年度業務実績評価書について報告があった。

(3) 脱炭素先行地域づくり事業の計画変更について

事務局から脱炭素先行地域づくり事業の計画変更について報告があった。

(4) 令和5年度第2回補正予算（専決）について

事務局から令和5年度第2回補正予算（専決）について報告があった。

(5) 近況報告

事務局から近況報告があった。

- ・ まちなかキャンパスの英語村とか環大スタディを本年度から再開されたようだが、利用は有るのか。
→英語村は以前は、曜日を決めて行っていたが今年度は、夏季休業中、春季休業中に中高校生を対象とした方式に変更した。夏期は周知があまりできていなかったため少なかったが、利用は有った。春季については、周知方法や中身を検討していきたい。環大スタディも再開し

ているが、暫らく中断していたこともあり周知が不足している状況であるが、若干名の利用がある。

- ・ 地元の中高生との接点ということもあるので積極的に取り組んでいただきたい。

5 その他

6 閉会